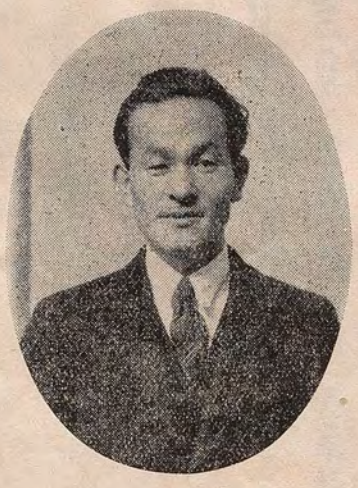
同窓會報

第三號

大阪經濟大學同窓會刊行



新學長 福井孝治氏 略歷

（明治三十二年生）

大正八年	第八高等學校卒業
	京都帝國大學經濟學部入學
大正十一年	京都帝國大學經濟學部卒業
	京都帝國大學大學院入學
大正十二年	文部省在外研究部員となる
	京都帝國大學大學院退學
	歐州留學
大正十四年	歸朝
	福島高等商業學校教授となる
昭和四年	大阪商大助教授
昭和八年	大阪商大教授
昭和二十四年	大阪市立大學經濟學部長
昭和二十五年	大阪經濟大學々長就任

もくじ

就任のことば……學長　福井孝治……一
農業危機の問題……一二回　高橋裕次郎……四
黒正學長の訃報を知り母校の教授にしるす手紙……四回　佐々木聰……二
黒正記念館建設資金募集について……理事長　渡邊達好……二
黒正先生を偲ぶ……四回　富田重雄……七
黒正先生の思ひ出……六回　大森侃二……一一
御來媛の黒正先生を偲びて……一〇回　佐伯幸利……八
黒正先生の横顔……六回　前田和夫……九
黒正校長を慕う……一〇回　湊健治……九
黒正先生を偲びて……七回　高橋恒清……一〇
短歌……四回　佐々木聰……一一

就任のことば

福井孝治

今回、はからずも、私の敬愛する先輩であり友人である故黒正學長の跡をお引受けすることになりましたことは、私の甚だ光榮とするところであります。元來、私は一個の學究として終始することを念願としていた者であつて、教育行政の方面に關しては素人であるばかりでなくその能力を欠く者でありますけれども、先輩の最大の遺産ともいうべき本學のために微力を盡して各位の御期待に添いたく思つています。

アメリカの哲學者ジョン・デユウイは大學の自由に關して、研究發表の自由は社會の進歩に欠くことの出來ないものであるけれども、このような自由の最大の敵は、この自由を壓迫しようとする反動家よりも、むしろ、下らない思想を下らない仕方で發表する者である。考える値うちのある思想、發表する値うちがあり且つ反動家に對抗して發表する勇氣に値する思想を持つた人々を作り出すことが學校の責任である、という意味のことを述べているが確かにそうだと思います。如何に思想の自由があるからといつて單なる思いつきに過ぎないような思想を、しかも人をして墮落せしめるような仕方で發表することは許されません。このような思想はまた直ちに權威に屈してしまうものです。着實な研究に立脚し抜き難い信念となつた思想ほど強いものはありません。研究發表の自由の尊重さるべきはこのような思想に就いてです。私は本學をして眞に大學の名に値する大學たらしめたいと思います。

戰後の經濟上の混亂に加えて學制改革の事があり、私學は目下一つの危機に置かれてあるといえます。しかし、人事一般がそうであるように、將來の發展への礎石は困難の時に据えられるものです。劃一的に流れる官學に對して私學の長所は自由闊達な氣風を發揮しうるところにあるといえます。學校が古くなると時代えの適應性を失い、學風は轉じて積弊となることがありますが、創立まだ日の淺い本學にはこのような虞れもありません。私は、幸いにも學内外各位の御支援の下に、この困難時にあつて本學の洋々たる前途を望んで行きたいと思つています。

黒正記念館(圖書館)建設資金募集について

理事長　渡邊達好

經濟的不況の壓迫は中小企業の足を次から次へと洗い去つて行くが如き云わゞ物凄い經濟恐慌の狀態であり、之に伴う家庭經濟も亦益々窮乏のどん底に逐い込まれているのが眞の社會的樣相であります。同窓會員の皆樣の中にも此の經濟恐慌の中に立つて幾多の困難と苦しみに耐えられ乍ら御活躍のことゝ思います。然も屹度母校に於て体得せられたあの「頑張りズム」の精神は今こそ大きな「ファイティングスピリット」となつて其の眞價を發揮せられていることゝ思います。母校も昨秋黒正先生を喪い一時は今後の方途に一抹の暗影を投げかけていましたが先頃新理事長に大阪商大の藤田敬三先生の就任を見更に後任學長には黒正先生とも藤田先生とも極めて因緣の深い大阪商大の福井孝治先生を御迎えして再出發大いに母校の發展に努力して頂いていることは既に御承知のこと、思います。わけて昨今の兩先生の獻身的御努力には黒正先生なき後盤石の强味を感じている次第でありまして同窓會の皆樣と共に御喜び申上げる次第であります。扨何時も乍ら同窓會の皆樣には母校の事共につきまして經濟的或は精神的御援助を戴いている次第で此の點同窓會役員の一員と致しまして厚く御禮申上げる次第であります。

先に御力添を戴きました黒正先生の遺兒育英資金募集につきましては一方ならぬ御出資を戴き有り難う御座いました。紙上を通じ厚く御禮を申上げます育英資金募集につきましては一應中途乍ら此の期を以て打ち切りの形に致し度いと思います。就きましては大學として現在焦眉の急とされております問題は圖書館の建設なのであります。

而もそれは大學昇格の根本誓約條件の一になつています關係から最近文部省よりの視察の事もあり、又實際に設けなければならぬ重要施設でもありますのでどうしても此の工事に着手せねばならなくなりました。その點では丁度黒正先生がなくなられた時同窓會で黒正記念館を創ろうではないかと云ふ多くの皆樣の意向もありましたので此の際同窓會の皆樣に御願いして建立すると云ふことに相成りました。折角建立するのであれば眞に黒正先生を記念するに足る立派なものを建てるのが本旨でありますが此の節のことでもありとり敢へず百萬圓程度の中二階木造平家建を計畫して着々進んでいる次第であります同窓會の皆樣何卒如上の趣旨御賛同の上一年か、つても結構です。尚小口で幾回でも結構です故一人當り千圓以上の御力添を御願い致します。誠に經濟事情逼塞の折柄出費も又御多端の折とは存じますが何卒宜敷黒正記念圖書館の完成に御協力下さいます樣御願い申上げます。

終に會員皆樣の御健康と御活躍を御祈り致します　　をはり。

黒正學長の訃報を知り母校の教授にしるす手紙

佐々木聰（四回）

拜啓。過日紙上にて、恩師黒正先生の御逝去を知り、洵に驚愕悲しみに堪へません。人間と云ふものは眞に心から尊敬でき得る人をもちますことはその人に取つて幸福なることと思はれますが、先生の御急逝はかそかなる私に取りましてもそかにお悦び申上げたものでしたが今となつては人間の運命と云ふものが何かはかないものに思はれてなりません。これからの母校のことや亡き先生のことが病床八年の私の腦裡に暗い影を映し駈け廻ります。

直接母校運營の第一線に立たれる〇先生の御心情おさつし申げて餘りあるものがありますがどうか御身御自愛の上母校再建のためお骨折り下さることをお願ひ致します。私は現在病床中で微力では有りますが、出來るだけのことは卒業生の一人としていたしたいと思つて居ります。そうすることが幾分でも亡き先生に報ゆる道だと信じます。

同封の御金御香奠として御納め下さいませ。尚短歌拾四首は誠に拙いものではありますが、作らずには居れなかつたのです。大學新聞にでも投稿さして頂きますからその樣にお取り計ひお願ひ致します。

ではくれぐれも御身体に御注意下さつて究學の道に御精勵のほどを御祈り致して居ります。

九月二十六日　　敬具

〇先生

追伸。先日の私の手紙御覽下さつたこと、思ひます。經大新聞一一號を入手餘すことなく讀みました、故先生が學界にのこされた幾多の業跡、美しく結ばれた人間愛の象徵、春風駘蕩、精氣橫溢、ほんとうに先生は人間味溢ふる、眞の學者であられました。悲しめど、悔やめども、あの愛情にみちたまなざしに接することが出來ません。しかし人間終局の運命がそこにあることを思ひますれば今は只先生の御冥福を祈り、私の過去に於きまして、先生ほどの人に接しただけでも幸ひであつたと思ひ現在の暗い療養生活を生きて行こうと思つて居ります。では御自愛下さつて學園のため御健闘のほど御祈り致し先生の御多幸を念じて居ります。

十月十日

〇先生

（編者註——短歌は別揭させて戴きました）

農業危機の問題

一二回　高橋裕次郎

（一）

暮もおし迫つた或る日曜日のこと、嬉しいにつけ悲しいにつけそして又考えに窮したとき、いつも兄の様な氣持で相談相手になつて頂くF教授の宅へその日もぶらりとお訪ねした。丁度その日は先生の親友の方々が久方ぶりに集ることになつていた。やがて某新聞社のI氏がニヤトリを下げ、某公團のM氏が四國からの出張途次やつてこられた。教授と私は師弟、且商大同窓會員としては先輩後輩の間柄でもあるし、その日集まつたのは何れも商大の先輩であるので、引止められるまゝに仲間入りさせて頂くことになつた。勢よく焔をあげる七輪の上で今し方I氏が下げて來られたカシワがぶつ〳〵と音を立てゝいる。先生の出して來られた一級ショウチユウは目に見えて減つて行く。熱を帶びて來た吾々は文學を論じ經濟を談じ又溫和な口調の先生の言葉を傾聽し、いつしか話は日本農業の悲慘な宿命に至つた。すき鍋の中の野菜は二、三先生の手作りとはいえ、大部分は農民の汗の結晶であり、迫りくる恐慌に身を任せて唯默々と働く彼等のつくつたものを、一入感慨深く味はつたのもこの夜ならではの風趣であつたろう。

後日私は其の夜のことを思ひ返すとき、一つ日本農業の現狀を分析し吾々はより深い理解を持たねばならぬと痛感し、以下にそれを試みることゝする。もとより農業經濟專攻の身でない私が、この様な問題をとり上げる大膽さは嘲笑を買うかもしれぬ。しかし讀者諸兄少くとも私の意圖する處を察知せられ、大方の御批判を乞う次第である。

（二）

太平洋戰爭以來、少くとも吾々都市生活者にはうらやましく思はれたのは農村の好況であつた。それも苛酷な供出制度、話にならぬ低米價を理解せぬ吾々のヒガミ眼も手傳つていたことは事實であるが、併し農產物に限らずすべての生產物にはセラーズマーケットの時代であり、而も吾々の生活源である食糧を生產し保有する農家は確かに強味があつた。例へそれが見せかけの好況であつたにせよその支柱の役目を果して來たものは農產物のヤミ賣りであつたことは誰しも認めねばなるまい。處が最近に至つてヤミ市場は縮少され、ヤミ價格は下落乃至は保合をつゞけている。かくて農業危機來るの聲が漸く高まりつゝある折柄、本年に入り肥料價格の大巾値上げ、外國食糧の大量輸入、農業人口の增加趨勢、それに對して低米價政策の維持等は愈々その感を深くするものである。

即ち最近に於ける一般的な購買力の減退、物價の値下り、企業合理化に伴ふ失業者の漸增等一連の經濟安定化傾向よりする農產物ヤミ市場の壓迫により、產地に於けるヤミ米價格は二三年初頃より横ばいし、本年に入つてからも下落傾向を示している。今、主食を含めた農產物價格の平均指數を見れば、二三年春に比し二四年九月に於て僅か五分程度の値上りにすぎない。この様な狀勢は必然的に農業經濟の丸公依存度を強める譯であるが米をはじめ農產物は本年に於ても低價格—低賃銀—低コストの線が堅持せられ、早期供出及び超過供出に對する奬勵金も、昨年以下に削減され、超過供出買入價格は昨年の三倍から二倍に引き下げられている。かくて農家の支出に對する收入の割合は相對的に減少し、それは預貯金の狀況、農業手形の利用狀況、各種金融機關の農業に對する新規貸付狀況等に如實に反映している。

（三）

先づ通貨安定對策本部調査による農漁村への通貨分布割合を見ると

	農漁村	合計額		農漁村	合計額
二一年五月	一七五億（五一・七%）	三三八億			
三年六月	三三八億（二六・四%）	一・三六五億	三年二月	四六三億（二九・三%）	二・一九一億
三三年六月	四六三億（二〇・〇%）	二・三五五億	三三年二月	七九三億（三三・三%）	三・五三三億
二四年六月	五一七億（一七・一%）				

大によつて、農家の消費資金の增加した結果、農家收入が減退したことをハッキリと物語つている。【註1】

今所得狀況の一指標として預貯金狀況を見るならば

	一戸當り手持現金及預金高	前年同月比增加高	同增加率（%）
三二年二月	一九・九三八圓		
三三年二月	三一・八四九圓	一一・九一一圓	〇・五九七
二四年二月	三四・六五三圓	一・八〇四圓	〇・〇八八

即ち一戸當り農家手持現金及預金高の絕對額は增加しているが、その增加率は著しく鈍化していることを知る。又預金總額に對する定期性預金の占める割合は二三年一月の一五%に比し、二四年八月は二%增の一七%とむしろ增加している。併し乍ら全國銀行預金總額の增加率と農協組合預金高のそれとを對比すると

	銀行	農協組
三二年一月	一〇〇	一〇〇
二四年八月	二七六	一五五

の示す通り、農協組預金の增加率は遙かに低く、從つて農協組預金の全國金融機關預金總額に於いて占める割合は

三二年一月	二七%
二四年一月	一六%
三三年七月	二五%
二四年七月	一四%

と減少しつゝある。

（註1）シエーレの形成に就いては毎日年鑑（二五年）二〇三頁圖表參照

次に所謂〝青田を賣つて〟再生產費を賄う農業手形の利用增大と、農家經濟の惡化との關連について、最近時事通信（日刊二五、一、七農林水產版）に注目すべき見解を載せている。私はこれを全面的に認めぬが、確かに一つの見方として價値あるものと思う。即ち同誌によれば、「供米代金支拂總額に對する貯金の步溜りが

二三年九月—二月	二五・六%
二四年九月—二月	一四・九%

と減少している。（註2）これは供米代金のうち短期運轉資金としての農手の決濟額が增加したゝめである。處でその農手の利用は二三年度末で二四億であつたが、二四年八月末に一四五億、本年には肥料の値上りにより二五〇億圓に上るものと推定されている。これらの關係を見るとき、農手利用高の增大はむしろ農家經濟を不健全にして行くものである。今假りに先に見た兩年度の供米代金支拂額のうち農手決濟分を貯金と見做した場合には、供米代金と貯金との比率は二三年度—二九・一% 二四年—二九・四%とむしろ逆に增加さえしている。」というのである。即ちこの事情は農家の再生產費にむけられるべき所得部分が、消費資金によつて食ひつぶされ（併し消費性向の增大を意味せぬ）從つて再生產費の借入金依存度が强められたことを如實に示している。

（註2）金融統計月報の實數參照

（四）

次に人口の增加よりする農業への壓迫に就いて見るならば、戰後復員或は都市人口の流入等によつて、農村人口は膨張の一途を辿つて來た。そして爾今、企業合理化その他による都市失業者の累增は、經濟安定化傾向につれて更に增加し、農業の扶養負擔を增大するものと考えられる。即ち農林業就業者數の全產業就業者數に對する比率は、二三年四月—六月の四七六%が二四年同期には五一・二%實數にして二一二萬人の增加となつている。これを戰前に比べると人口にして六五〇萬、戶數にして五五萬戶もふえている。經營規模に於ては農地改革により零細化されたゝめ、戰前の一戶當り約一町が八反四畝となつたが、農業人口の增加により更に零細化を餘儀なくされ、生產高の八割を自家消費する處の、所謂飯米農家の數が四七・六%にまでふえている。

飯米をヤミ賣りして生活していたこれら零細農家はヤミ市場の縮少により、生活がより困窮化することが豫想せられる。かくの如き人口面よりの壓迫が、本年は更に加はりつゝある一方、更に重大問題として擧げられるのは輸入食糧に就いてゞある。

即ち本年より食糧を商業勘定によつて輸入することが可能となつたので當然輸入量の增加が豫想されうる。政府發表の計畫によれば本年四月に始

る會計年度に於て約三四〇萬トンの食糧が輸入されることになつている。しかし現在輸入食糧は國内産に比し相當割高となつているし、（註3）又國内食糧の絶對量の不足という事實を考え合はせるときに、三四〇萬トン（玄米換算三一四萬トン）の輸入は量及び價格の何れの點に於いても、直ちに吾が國農業に大きな影響を及ぼさないと思う。だが昨年より一二〇萬トン、米に換算して約七、八百萬石の增加は食糧事情の緩和となり、農家經濟を壓迫する要因であることは考えられるべきであろう。

（註3） A.農産物輸入價格と國内價格の比較（トン當り）

（農林省統計調査局農村物價調）

	CIF 價格	國換算 (a)	國内卸下價格	國内生産者價格(b)	農村ヤミ價格	a/b
小麥	100.00ドル	36,000円	16,200円	21,050円	61,600円	171.0
小麥粉	141.16	50,817	19,328	37,150	—	136.7
米（シャム）	177.37	63,853	25,981	24,306	98,340	262.7

B 最近決定したタイとの鐵道車輛と米のメーター貿易によるタイ米價格 石當り 9,500圓

眼を世界の農産食糧事情に轉ずるならば米の供給量は依然不足しているが、小麥に就いては過剩地域が出來て居り、最近日本及びドイツが國際小麥協定に參加することを承認する傾向にあるのもその顯著な表れといえよう。

そしてかゝる狀勢の下に於ては前記輸入計畫の達成は略々確定的であるものと見て早計ではあるまい。かくては生産費の割高な米を生産する日本農業は安い小麥の壓迫をうける懸念も又確實に豫想されうる處である。現在輸入食糧に對しては補給金が支給され、國内産米價格とのバランスを保つているが、ドッヂラインに沿つて輸入食糧に對する補給金もやがて徹廢されるであらう。それに伴つて國内價格にサヤ寄せされ、やがて外國食糧との競爭を覺悟せねばなるまい。本年はこの第一段階に入つたものとして吾が國農業經濟にとつて大きな意義をもつであらう。

（五）

この様に吾が國農業は經濟安定化とゝもに内外兩面より壓迫をうける。勿論食糧事情の緩和はわれ〳〵消費者にとつて結構なことであり、エンゲル系數より見れば吾々の生活程度の向上を意味するかもしれない。しかし乍ら國民經濟のバランスという點に立脚すれば、吾が國就業人口の五二%を占める農業者の沒落は、吾々に大きな影響をもたらすことを考えねばならぬ。吾が國農業は工業と異り、自らホーム・マーケットを創設し開拓してゆく起動力をもたない。（註4） 集約的水田農業に於ては、不況に對し生産の向上或はコスト切下等によつて對抗する彈力性は殆ど零といつても差支えあるまい。

（註4） 經濟評論二五年一月號「一九五〇年日本經濟展望」のうち特に東畑教授の所説

然らばかゝる農業危機に對する政府の對策如何というに、殆どそれらしきものを聞かぬ。

吾が國の農業危機救濟策として、農業過剩人口の吸收にポイントをおくならば吾が國に於いては農業政策と社會政策とが一致するということになる。事實從來とられて來た農業政策はそうであつた。そしてそれがかつて「女工哀史」をつくり、又ソシアルダンピングとして列國の憤激を買ひ又舊日本帝國沒落の源ともなつたといえよう。

今、本年度豫算を見るに所謂超均衡豫算として千二百億に上る債務償還その他のデフレ要因をおくとゝもに、九百億の公共事業費に於て不況の緩和策にその特色の一端を見る。

この公共事業費を以て直ちにケインズ理論の所謂公共投資と同一視することは冒險であらう。しかし豫算立案者に於てそのねらひはあると思う。その場合、かのアメリカに於ける一九三〇年代の大恐慌の際、T・V・Aをはじめ、ルーズヴエルトのニューディール政策にケインズ理論を以て參畫したかのアルヴイン・ハンセンの考えた通りに、吾が國に於て乘數の理論が成功するや否やは疑問と云はねばなるまい。何故ならば、吾が國はアメリカの如く資源にめぐまれず、土木事業をする際スコツプ一つにしても、その生産資材を海外よりの輸入にまたねばならぬからである。かくて私は日本の場合公共事業費を增額し、雇傭量の增大をはかることは結局に於て國民所得の分配を再編し、（それは資本家階級よりの搾取を意味せぬ）被傭者の最低生活を保障せんとする社會保障的な性格をもつものであると思う。

この様に考えてくると、斜陽階級（太宰治の）ならずとも、私は悲觀的な結論に逢着する。われ〳〵に與えられた課題は、日本農業の特質及びそれと國民經濟との關連に就いて、より深い關心を持ち問題解決のキー・ポイントを引き出すことであろう。敢えてそれに關する私見をこゝに披瀝せぬ何故なら私の未だ淺學にして、問題の餘りに大きいからである。諸賢の御教示を願うや切なることを附言して筆をおく。（二五、一、一〇稿）

黑正先生を偲ぶ

第四回 富田重雄

先生の急逝のことを知つたのはたしか九月四日の夕方、所用をすませて東京よりの歸途驛頭で買ひ求めた東京新聞の夕刊紙上であつた。混み合ふ車中私はこの悲報の數行を發見した。一度は私の目を疑つた。そして今一度私はその記事に大きく目をみはつた。けれどもそれは悲しい現實であつた。

私は十四年前に始めて先生の教を受けた一人の生徒として先生への思ひ出を綴り深い學恩に感謝するとともに今は亡き先生への心からなるたむけといたしたい。

一、入學の頃

私共の入學したのは昭和十年の春であつた。その頃の學園はその前の年より起つた從來の學園經營者にまつはる或問題のため、學園そのものが存續するかどうか危まれる狀態から脫し切つていなかつた。はずむ希望を懷に入學した私共にとつて殆んど一學期の間といふもの、そのあけくれはほんとうに暗いものがあつた一時は學園閉鎖のデマまで飛んだのであるが、その間當局と關係者の絶えざる努力は學園の經營者を更新することに向けられた結果その中心人物として登場したのは當時の京大教授黑正先生、商大教授菅野先生であつた。そしてその年の九月、校名も新しく昭和高等商業學校と改稱されたある日、黑正新校長の就任式があの講堂でとり行はれた。

固唾をのんで待ち佗びる式場で私は始めて黑正先生のあの赫ら顏の童顏、和服のあの威嚴を包んだ溫容、滔々たる御訓示に接した。全てそれは私共自身の再生の喜びであつた。私はその日の先生の御言葉は若き私共をいやが上にも期するところあらしめた。かくて學園の基礎は確立され黑正先生を中心とする先生方と生徒は渾然一体となつて學園興隆への異常な努力が開始されたのである。この頃當時の先輩、同窓の間に行はれていた綠化運動と清掃運動があつたこれについては黑正先生の名とともに今は亡き米津次郎先生のことが銘記されなければならないと思ふ。特に綠化運動は私共の學園復興運動のさきがけをなすものであつた。學園を愛するひたむきの努力は遂に數千坪の校庭に殆んど一本の青草もなかつた學園が綠の學園となつたのである。この間の消息は昭和高商研究部報創刊號に於ける黑正先生自らの卷頭言に先生獨特の雄渾な大文字となつて殘されている。

二、學校を卒へて

學校を卒へたのは昭和十三年の春その一月末、私は黑正先生の御推薦に依つて京阪電鐵に入社することに決つた。實のところ私は在學の頃から社會事業方面に働きたいと思ひ一度はその志望を表明したが、先生の御推薦に反することは氣の弱い私にとつて出來ないことであつた。私はこゝに自ら誤りを犯したのである。私は自らの志望を換へて京阪電鐵へ入社した。入社間もなく私は當時京阪電鐵が出していた趣味の雜誌京阪の編輯を擔當することゝなつた。私が編輯の仕事に當るやうになつて間もなく、私はその雜誌を飾るため先生の玉稿を御願ひすべく先生を訪問したことがあつた。その原稿は急を要するものであつただけに忙しい先生にはすぐに承諾されまいと思ひ、斷はられるのを覺悟の上で、おそる〳〵御願ひしてみたわけであるが、先生は意外にもたやすく私の申出を引受けていただき、御願ひした通り一週間を經ずして先生の玉稿は私の机上に送られて來た。その喜びは今以て忘れる事が出來ない。玉稿は

「獨逸の思ひ出」と題したものであり特にヒットラーユーゲントの來訪がある前であつただけに先生の玉稿は至く時宜を得たものであるといはれ私は大いに面目を施したものであつた。私は今にその玉稿を大切に保存しているが、こんなに早く先生の記念として持つことにならうとは。

聽て私は京阪電鐵を退職することとなつたが、これを決めることについてこれが先生の學恩に背くことなので暫くは私にとつて大きな惱みであつた。當時先生に非常な心配を煩はしたことであるが、先生の生前改めて御詫びする機會もなかつたことは私はとつて穴にでも入りたい氣持かへす〳〵甲譯もないことに存じてをります。

學園の地を去つて當地に移り住んで約十年、私は弱い自分に鞭打つて私の使命とする仕事に微力を捧げてをります。ささやかな結核の病院社會事業であるが、この仕事を通じて私は生前報ゆることのなかつた先生の學恩の萬一に報ゆるところありたいと念願してをります。

（千葉縣市川にて）

御來媛の黒正先生を偲びて

十回　佐伯幸利（次郎改め）

丁度復員した翌年（昭和二十二年）の八月先生が夏季青年大學の講師に招かれて琴平町に御出でになつた時の事である。久し振りに先生の情熱溢るゝ講義を拜聽すべく、當日同期の久保秀一君と一緒に琴平町に駈けつけた。然し講義が繰上げ施行された爲、全く遺憾乍ら最後の數分間座談會に出席したのみに過ぎなかつたが、あの心に畫いた昔その儘の先生を拜し、懷しさが泉の如く湧き出でたものであつた。處が、意外にも先生は次の列車で歸岡されるとの事なので、宿にも行けず私等は早速琴平驛に駈けつけ、先生を御待ちする事にした。在學時代個人的には直接御接しした事もなく、當時六高校長であられた先生にお會ひすると思ふとき、先生はどうして六高に去られたのであろうか……等、その間の事情を精しく知らない小生は一抹の不安を感ぜずにはいられなかつた。然し充分に窺ひ知る事が出來た。車内先生は經專の近況を種々詳しく御話し下され、更に學園には高松經專など遙かに及ばない等と、先生の確固たる所信の程を披瀝して下され、私等も大いに共鳴すると共に、内心先生の一日も早く學園に歸られん事を祈つたものである。多度津驛迄の僅か數十分の間ではあつたが、「家は百姓か、米の飯が腹一杯喰へるね」とか、「六高の官舍でおるから岡山へ來たら寄り給へ…」等とざつくばらんに磊々と御話しになられ、最後に「觀音寺はなか〳〵えゝ所ぢやつた何とか云ふえゝ旅館があつたな…、一つ香川全部でなくとも此の邊の者で一度觀音寺當りで同窓會をやつたらどうぢやな。」と云ふ風に御提案され、私等も是非そうしたいと心に期して、先生は高松の方へ私等は觀音寺へとお別れしたのであつた。が當時のお別れが最後にならうとは…全く感慨無量である。

二十二年の夏先生は各地に招かれて、大体「インフレ並びに農村問題」等をテーマとされて御講演をされていた様であるが、清濁あはせのむと云はうか、混然一体たる御風格に加へ、頭腦益々御明晰にして、將に日昭和學園の吾々の黒正先生を固く信じ且敬慕の念は一層強く、復雜な心で御待ちしたものであつた。既に列事も入らんとする折柄、先生は半ズボン姿の御輕裝に御愛用のステッキを右手に、御令息御二方、經專生一人を御同伴の上驛に馴せつけて來られた。私等は直ちに進み寄り、自己紹介と共に日頃の御無沙汰を謹んで謝するに、先生は大きく「やーうんうん」と仰ぎ加減に御頷きになり乍ら、例の溫顏を綻ばせ、正に百年の知己の如き親しみを以て「克く來てくれた、二日前から來ていたんだ、昨日はひまでね、この一寸奥の村で泊つて來た」等と本當に心から御喜び下さつて、大いに恐縮したものであつた。乘車するや否や先生は座席に大きな荷物を置き、除けようともしない闇屋風情の三、四人をステッキで指し乍ら、例の早口で厳しく戒められていた様であつたが、流石の彼等も先生の堂々たる御体軀と不敵な御容貌の前には全く平服し、默々と荷物を整理して三人ばかりの席を空けた。この些細な事の中にも、小生は當時の混亂極まりなき社會を遙かに超越され、談然として眞實に生きる先生の御態度並に御性格の一面を進月歩飛躍に飛躍を重ねたる御識見は來聽者に深く感銘を與へた樣である。特に先生は日本經濟の本質と國際狀勢を克く見究められ、日本經濟の將來に就き堂々たる樂觀論を述べられ、三伏の熱風もさる事乍ら、インフレの嵐に心もすさび、疲れ果てた幾多の人々に安定感と希望を與へ從來の學者とは面目を一新して、先生の社會教育家たるの一面を遺憾なく發揮されていた、それだけに今回の急逝は、學界はもとより、すべての各地各層の人々より深く惜まれている事であらう。先生の講義は情熱と覇氣に富んでゐるのは勿論の事、引例に特に妙を得られ、且簡易にしてユーモラスな中に、學問的香りはいやが上にも高く、專門家には示唆を與へ、初心者には解り易く、老人には好まれ、若人に響き、將に先生の混然一体たる大きい御人格と共に天下一品と云はざるを得なかつた。故に後日小生が「どうです黒正博士の講演は」と問へば異口同音に、すべての人より「良かつた、爲になつた」と云ふ風な感嘆の聲を聞く事が出來た。小生は偉大なる黒正先生の下に育くまれた事を無上の喜びとすると共に、高きプライドを持していあつた。

熱すれば、口に泡をとばされ、磊落な氣質の中に人の氣を引きつける魅力とがあつた。

社會に出て、有能な人物となれ…のお言葉は、先生の平常我々の胸深くに、口ぐせのやうに、言はれた。又それ程、先生は世の中のあらゆる方面に深い造詣と見識とをもつて居られ、あちこちに居る象牙の塔にとじこもつた巷の學者ではなかつた。

それで先生にお會ひした印象は誰でも臭みのない垢ぬけのした所謂洗練された社交家であり、立派な紳士でもあつた。

仲々のユーモア（日本人は、下手だが）を心得へられていて講義中には大風呂敷を擴げたあの特有の快活な話題に、よく滿場の大衆を煙にまきつゝ、笑はせる名手でもあつた。

先生の口ぐせに言はれたもう一つのお言葉は「社會へ出ても、よく書物を讀むこと」―我々の晴れの卒業式場で、他へ旅立つ子弟を見送る慈悲深い親のやうに、コン〳〵と言はれた。

この言葉は、卒業をしてより、はや十年になりますが深い印象に殘つて、僕の人生行路にあつて、自分の心に鞭打ちつゝ眞直ぐに進んでいる。

今や、あのニコやかな御顏を見たいと思つても、又愉快なお話を伺ひたいと思つても、先生は、既にこの世の中にはおいでにならない。あゝ、殘念だ。

だが、先生のおいて行かれた遺業は、大きい。先生の精神は永遠に大阪經大の中に漂つていることだらうそして第二の黒正先生が出現し母校がより一層スク〳〵と健全な發展をするやう地下で先生はキット望んでいられることでせう。

我々は、それにお答へするやうお互に努め相ひ勵まうじやありませんか。

三重縣名張高等學校
教諭　前田和夫
十一月二十七日記す。

黒正校長を慕う

第十回卒業生　湊健治

先生、先生はどうして私達教へ子を殘して行かれたのですか、私は本當に慈父の死に會つた思いです、高商生活三ヶ年、先生の大きな暖いつばさの下にはぐくまれ、卒業後もなほ先生のつばさは、無限に私達をは

ぐくみつゞけてくれしました。私達の在學中は丁度大東亞戰爭の眞最中でした。そしてともすると、かたくなになりがちな私達の心は、先生の御話をきくと本當にゆたかに、のびのびとしました。

私の覺えている先生の御言葉。それは私が今まで二十七年間生きてきた內で一番印象の深いものでした。そして生涯その印象は消えないものと確信します。

先生は御自分の顏を表現されて、「金時の火事見舞のやうな顏をして」とよく言はれました。「頑張りズム」それは私達のモットーとなりました「昭和は天下の高商でありまして」それは私達に自信と誇を植えつけてくれました。「諸君は軍需工業方面にのみ進出しないであらゆる面へ進出して欲しい」それは正に含蓄のある御言葉で、私達卒業生が就職の時のお言葉でした。

在學中私は音樂部に席をおいていました。私達の部室は講堂の裏手にありました。或る日先生はその部屋を見られました。私達の部室は極めて亂雜なものでした、先生はこともなげにおつしやられました。「掃除をした方が良いと思ふ、美しい方が良いだらう」その御言葉には少しの皮肉も含まれてはいませんでした。私達はたゞ恥じ入るばかりでした。

私はあの戰時中に、こんなおだやかな暖い御注意をきこうとは思いませんでした。

私の一番大切にしている先生のお言葉。「どうか諸君、諸君が死の瞬間まで、その机上にひもとかれた書物があつて欲しい、もし將來私が諸君とお目にかゝつた時、諸君の机上のひもとかれた書物を見て一番嬉しく思うだらう」それは私達の人間としての自覺をよびさまして學究的精神を鼓舞してくれました。

嗚呼！先生もう一度先生の溫顏をお見せ下さい、そしてもう一度お話をきかせて下さい。日が經つにつれて先生の面影は濃くなるばかりです

先生、私は先生の御恩に御報いするために先生の御寫眞を前にして、いつも先生に見守られながら死ぬまで勉強いたします。そして必ず私が死ぬ時に机上にひもとかれた書物がある事をお誓い致します。

× × ×
× ×

黑正先生を偲びて

同窓會東海支部
高橋恒清（七回）

四月二十九日の天長節に東京より歸途にわざわざ御立ち寄りになり我々に一席辯じて下されし黑正先生の訃報に接した時は私は呆然として了つた一度は誰でも參上せねばならぬ善光寺樣であり乍らもう少し人とか時とかを相談して頂き度いものだと思はざるを得なかつた新生再建途上にある母校としては此の上もない痛手であり同時に同窓生一同としても殘念の一語に盡き何とも言ひ現はす事の出來ない一大痛恨事であつた。

當地での僅か五時間許りの會合であつたが來り參せし者遠くは濱松地方より或は美濃の方田舍の方より來られし人々があり本當に嬉しく樂しい一時を送つた事が今思ひ出して見ると本當に喜ばしき事であつた。之は當日參會せし僅か四〇名許りの者に取つて一生忘る可からざる追憶となつた。當日の先生は例のスプリングコートにステッキそれにハンチングと言ふ服裝で丁度私が在學せる當時比叡山とか淡路島へ旅行せし時のあの思ひ出の服裝であつた。

當日當支部長岡田佐市氏（六回）不在の爲幹事長をしている私が潛越乍ら議長となり司會した。司會者の挨拶はどの會合でも形の如くであるのはラヂオの討論會でも御承知の筈であるその後で先生が立たれて一席我々に辯じて下さつた事は出席者に取り忘れ得ぬ感激であつた。そして先生は岡山の縣勞働委員會の中立委員をして居られた時の經驗であつたが人の意見を最後まで聞かねばえらい苦勞する。中途で判斷をすると結果は穴へでも入りたくなる位の手違ひが生ずる。人の意見を尊重して聞けよと言ふ事を御話し下さつた。即ち現在の名士は多く反資本主義である。勞働者は多く反資本主義である。名士とは主に政財界の指導者連であるが何から何迄徹底して居り反共一点張りで之故不都合なる不逞のやからと言ふ如き言葉が出る。又勤勞者はやれ獨占資本だの反動などの如くむつかしい言葉を使ひ資本家を一敵國としている。そして双方が少しの隙間からすぐ敵對行爲をする之では祖國再建のどうのと言つても無駄であると喝破されたが此の御言葉は修正資本主義を信條とする私にとつて有益此の上なき且又興味深く感じたのであつた。

そして我々同窓生と談論數刻、時間の過ぐるを知らず早々として歸られたのである。その時名古屋の市中をぶらついていて靴屋をひやかして親父に無理に買はされてねと私に見せて下さつた。それも今では思ひ出の一駒である。

嗚呼在天の靈よ、願くは昭和高商精神を照らし給はむ事を……。

黑正先生の思ひ出

六回　大森侃二

旅の生命は旅の記憶の反芻に在る牧野博士はその隨筆の中で旅の實感をこう語つておられる。私は旅の一番樂しいのは旅行をしている時ではなく旅から歸つて靜かに回想する時だと思ふ。旅の記憶は反芻を重ねるごとに醇化されて懷かしい思い出のみが殘るからである。これと同じことが人生と云ふ旅についても云い得るのではないかと思う。九月急逝された恩師黑正出生のことを憶うにつけ、私の先生に對する記憶の反芻は全く懷かしいものばかりである。私が先生の訃報に接したのは社用の旅先であつた。私はそれより十日ばかり前元氣な姿に接していたので先生の急逝が何だか嘘の樣な氣がしてなら現した事を思いドキリとした。

先生が經濟學博士であり京都大學の教授であつたり經大の學長であつた。これらの肩書きの人としてでなく設備も充分完備せず殺風景な學校であつたけれども黑正イズムとでも言うべき一種獨特な張切つた空氣があつた。學的レベルはいざ知らず愛校心といふ点に於ては黑正先生を中心に師弟共に血の通つた團結があつた。だから生徒自ら資金を出し合つて綠化運動をやり、たまさかの日曜日の勞働奉仕にも喜んで登校していたし教室の掃除も自らやるといふ風であつた。私の學生々活をふり歸つて見てこんな雰圍氣の中で學んだ三年間が一番に印象に殘つている。夏休になる前の先生の注意等は又振つていた。歸省には必ず兩親の御土産を買つて歸る事だ、親を喜ばせて小使を澤山貰ふコツはこれに限るなどと人情味タップリなことを話されていた。

私は卒業すると先生の御意見に從つて九州大學に入學した。私が先生から賜つた指導と鞭撻は寧ろ卒業後に多かつたといえる。それは私が早くから父に先だたれていた爲に先生に色々な相談をしていたことにもよる。休暇には大底先生を訪問して色々な意味で御指導にあずかつた。確か昭和十五年の夏のことだつたと思うが比叡山で御會いしたことがある

が先生の計報に接したのは社用の旅先であつた。私はそれより十日ばかり前元氣な姿に接していたので先生の急逝が何だか嘘の樣な氣がしてな

「短歌」

恩師黑正先生の急死を悼む

幾度も讀みかえしゆく今朝の訃報涙ながれて活字にしみぬ
ありありと幻にたちて悲しかも何氣なくひらきし新聞の前
新聞の黑枠の寫眞きりぬきて病む吾が部屋の壁にかゝげぬ
幾千人先生に憧れ學びたりき中の一人にて遂にむくひず
先生の作り給ひし校歌唱ひ樂しかりき三年のカレヂライフ
壁の造り新しき特別教室に聞きたりき先生の經濟地理學
ホームスパンの紺の背廣よく似合ひドイツより歸り給ひし日の思ひ出づ
亡き吾の父にかも似て童眼の先生をひそかにしたひき
或る時は親の如くにしたひし吾よき學生たりしと言ふにも非ず
先生の講義にエスケープしたること一度ありき今悔いて偲びぬ
淡路島一日廻りし思ひ出よ先生は白帽にステキにてありき
導きてやさしかりしを思ひ出で病の床に淚が落ちぬ
健かに在りし日の面影浮びくる吾が一日一日の慰めとなりて
夕霧はたえまなくして湖の汀に立てり君よなきかも

追記「私はアララギ會員です。かな使ひは歌では現在歷史かな使ひによりますからそれによつて居ります」

く人情味豊かな人間としての先生を私は偲び度いと思ふ。私が始めて先生に接したのは昭和十二年新入學の時であつた。其の當時は創立日尙淺らなかつた。腦溢血という新聞記事を見た時、先生が生前好きな酒と抱合心中で死んでも心殘りはないと冗談云つておられたことが皮肉にも實

其の時先生は經濟地理原論を書いておられたが山莊で唯一人不自由な自炊生活をしておられた。だから先生自ら飯をたき味噌汁をつくり、私が塩魚を燒いてお菜をつくると云つた風で先生御自慢の手料理を御馳走になつた。普通の人には迚もしかねる様な日常の仕事でも先生はこんな具合で平氣だつた。先生は良く自分の事を野蠻人だと云つておられたが何でも平氣で出來る人であつた。男で出來ないものは何もない、唯子供が產めないだけだ。女の炊事が特許の様に考へられているのは、おかしな話だと云うのが先生の自論であつた先生が亡くなられた時新聞に夢の多い青年だつたと書いていたが先生は確かにそう云う人であつた。だから先生には常に青年の様な若々しさがあふれていた。日本の科學政策の失敗は夢を無視することにある。だから日本人は夢を畫き此の夢と現實を結びつける努力を知らない。途方もない夢を云うと其の道の專門家は口を揃えてそれは素人の空想だと一笑に附して了う。彼等は德川時代の空を飛ぶ空想が百年後には飛行機となつて現實化した事を忘れているのだから面白い。人間生活は現實から離れて夢を畫き夢を追うだけでも愉快になる。夢のない人は人生に見捨てられた哀れむべき人間である。先生はこう云う御意見であつた。今はもう古い書物になつたので皆の記憶から遠ざかつているかも知れないが田邊元博士の „歷史的現實„ について私が先生に對して反對の愚論を吐いた所、先生は熱心に夜十二時頃まで私の納得する迄說明された。此の聲が餘り大きかつたので隣りの家にいた三高のドイツ人敎師がビックリして尋ねて來た程だつた。私は今も先生の此の熱情に對して全く敬意を表している。私は比叡山の山莊で二晩御邪魔して歸つたが今はもう思ひ出の種となつてしまつた。

私は大學を出るとペンを銃に代えて國防の第一線に立たねばならなかつた。大學の門は直ちに戰場に通じていた。私が戰地にある時先生は六高の校長として鄕里の岡山に歸つておられた。私の鄕里も岡山縣の片田舍であつたので學徒動員等で田舍に來られると再三留守宅を見舞つて戴いた。私は戰地で母からこれを聞いて慈父の様な先生の溫情に心から感謝した。其の後比島の戰線が危殆に頻してから主計將校であつた私は東京から空路南方へ轉ずることになつた。內地の最後の地は福岡の雁巢飛行場であり此の日は朝から物凄い寒さの吹雪であつた。生きて再び故國の土を踏むことはないと覺悟を定めていた私にとつては正に悲壯な出發であつた。此の日私は偶然にも先生が博多に居られて九州大學で御世話になつた森先生と二人から見送りをうけて激勵の言葉を戴いた私はこれが先生との最後だと思つていたが私は幸か不幸か再び生きて故國の土を踏むことが出來て再び懷しい先生の姿に接する事が出來た。先生の岡山における人氣は大したもので常に知事候補、代議士候補、岡山市長候補にあげられ地勞委でも棘腕を振われたので名物男になりラジオに新聞に講演に忙しかつた。岡山縣は津々浦々にまで先生の名聲の及ばぬ所はなかつた程である。私は二、三講演にお供をしたことがあるが田舍の百姓相手の仲々ユーモアタップリの先生の話は實に人氣があつた。長講二席の浪花節よりも面白くて爲になると皆が云うのであるから其の人氣は相當なものである。講演を終えて晝食をしていると早速隣村の校長や村長が次の講演をお願ひすると云つた有様で次の講演の日程が定ると云ふ風であつた。先生は政治と煙草は嫌いだと云つておられたがあの人氣からすれば先生が政界に乘出そうと思へば誠に易々たるものであつたろうと思う。先生は又無用の學の大家でもあつた。學者であり乍ら散髮屋料理屋うどん屋から人力車夫の生活に至るまで世事百般に亘り仲々詳しかつた。又洋の東西を問はず旅行しておられたので其の知識體驗の豐富なことは全く驚ろくばかりであつた。從つて先生の話には巾がありスケールが大きいから相手を見て法を說く餘裕が出來大衆にアッピールする魅力があつたのである。宴會の席上座談のうまいのも又定評があつた。先生の學校における講義にも確かに魅力があつた。大學の講義等に雜談を交えることを邪道だと一概に排擊する人もあるが私は決してそうは思わない。兎角單調に陷り易い講義に雜談を交えることにより學生の注意を喚起し講義に興味をもたらすことが決して惡いとは考えられないからである。

私は其の後先生の御世話で現在の妻と結婚した。私は色々な意味で此の十年間に先生から受けた御恩は大きい。漸く一人前になつて御恩返しをしなければならぬ時に先生を亡つたことは、私一個人としてその不孝をお詫びしなければならぬ。又同窓生の一人として先生の政治的手腕と敎育的情熱に母校の發展を期していただけに、先生の死は惜しみて尙餘りあるものがある。或は華やかな先生の生涯には應はしい大往生であつたと云うかも知れないが、私は先生のハンテングにステッキ姿のニコニコした顏が五十五才を一期として此の世から消え去つたことに對し、人生のはかなさを泌々と感ずる。

世の中は所詮もがき、嘆き、悲しみ、喜ぶ生物の苦惱によつて綴えず何ものかが生れて行くものである。こゝに人生の深い意義が實現せられて行く。母校の將來にとつても又私一個人としても先生の遺志を繼ぎ新しきものを築き上げることが、先生の御冥福を祈る所以であることを私は信ずる。

勤務先の資料を御送り下さい

經營學の實際を研究するため母校では企業經營研究會設立の準備が進められて居ります。就而は諸君の勤務せられる會社商店或は關係商社の製品カタログ、バランス其の他參考書類を出來るだけ母校に送り母校の發展に御協力下さい。

送り先　母校　藤原先生

同窓會名簿發行します

終戰以來久しく暗中も索をつゞけていました名簿編纂委員會ではようやく此の程見る可き成果を得て七月末頃全卒業生の名簿を發刊することゝなりましたので至急御申込下さい

記

一、頒價　一部　金百圓
二、申込締切　七月末日（限定出版のため期日迄に御申込なき節は追加御注文には應じ兼ねます）
二、申込方法　振替又は小爲替による現金御送附のこと
振替口座大阪一一一、九八八番
三、宛先　大阪經濟大學同窓會

同窓會報購讀料について

同窓會報は年四回發行と內容の充實をめざして係員一同はり切つて精進して居りますが何處も同じ、御多分にもれず極端な金づまりで四苦八苦です何しろ十二萬圓の豫算で三千部年四回發行とすれば之の郵送代だけでも七萬二千圓が飛ぶ勘定ですからてんでお話になりません

右次第で次號より實費の一部として一ケ年分購讀料五十圓を御送付の方に限り御送りすることに決定しましたのであしからず御諒承下さい

尙代金は郵便切手を封入お送り下さつても結構です

さくも涙！語るも涙！泡に御同情にたえません

この金詰りの昨今諸兄諸姉のふところを思へば胸せまりそゞろに涙そゝるを禁じ得ませんがそれにしても今號はまあどうしたことでせう

先づ會報購讀料一年分五十圓、同窓會名簿代百圓で〆て百五十圓、それに圖書館建設資金として最底二百圓で都合三百五十圓、ジョッキ三杯は輕く飛ぶわけです　衷心より御同情申上げます。

何も編輯子の責任ではございませんから不惡御諒承の上氣持よくしぼられて(?)引續き御愛讀下さい。

會名を募る！

母校の大學昇格に伴ひわが同窓會も一段の飛躍と充實を圖るべく努力致して居りますが大阪經濟大學同窓會ではあまりにも名前が固苦しく響き氣の合つた同窓生の馴ひの一刻を表現するにふさわしくないと思ひますので今般諸兄諸姉より左記により會名を募集致します

記

一、制限　五字以內程度漢字又はひら假名（なるべく母校のふんいき又は理想を表現せるもの）
二、用紙　葉書
三、締切　七月末日
四、其他　選擇は委員に御一任願ひます

尙、先日の例會で左の通り提案ありました、若しこの中に適當なのがあれば之を御通知下さつても結構です

澱江會。淀水會。淀江會
巖會。瑞江會

大阪經濟大學開學記念講演會

主催　大阪經濟大學
日時　七月八日(土)午後一時—五時
會場　大阪商工會議所講堂

挨拶　學長　福井孝治
戰後の工業と大阪の地位　教授　菊田太郎
企業會計と稅務會計の對立　同　本田利夫
改正會社法について　同　西島彌太郎
中小工業經營の欠陷について　同　藤田敬三
同窓會諸兄諸姉の多數御來聽を乞う

お知らせ

◉各地支部所在地一覽

東海支部　名古屋市中區鐵砲町一ノ二〇　岡田佐市方
石川支部　金澤市大桶町四五　中川清方
神戸支部　神戸市須磨區離宮一九二　外海波吉方
姫路支部　姫路市外飾西　永川仁一方
岡山支部　岡山縣廳內岡山縣農林株式會社經理課　三宅早苗方
廣島支部　廣島市古田町高須　藝備銀行內　田邊忠司方
德島支部　德島市福島町二ノ一九　谷俊一郎方
高松支部　香川縣香川郡川岡村一五五二　松原範幸方
丹波支部　兵庫縣多紀郡八上村池上三六七　新家繁方

◉本部例會　毎月第一土曜日の午後一時より
北濱一丁目野村ビル(大和銀行北濱支店のビル內)如水會にて

編輯後記

○薫風と共に第三號を机上に贈る、同窓會報としては今號が最後で次號より新會名を採入れた今少しスマートなのにし度いと同時に無料贈呈も之が最後となる地獄の里も何とやらでいやはやせち苛い時節になつたもんだがどう考へてもこの儘では算ばんが持てない過日の參院選擧ではないが切に切にお願いする次第

○今號は追悼號とする豫定であつたが經費の都合上已むを得ず新學園理事長並に新學長歡迎號と併せた始末、新學長決定に付ては大北教授の御努力もさることゝ乍ら渡邊理事長並に世良企劃部長らの功績こそ高く評價されなければならない兩氏らの蔭の動きはいづれ時期を見て發表させて貰ひ度いと思ふ

○われ〳〵が卒業のときの同窓會入會費がたしか卅圓だつたと思ふ、それが當時とくらべ諸物價が二百倍を超えている今日此の頃も矢張二百圓らしい　在學生諸君に一文でも餘分の負擔をかけないとされる當局の親心は身に泌みて分るが之では同窓會があまり可愛想だ

今時分一ヶ年總豫算十二萬圓とは昔の五六百圓だ　之では何が出來ると思召す　物價指數にスライドせよとは云はないが今少し入會金をあげて世帶を樂にして貰へぬものか

○次號より和歌俳句其の他讀者の聲式の欄も設け諸兄諸姉の通信文も掲載、にぎ〳〵しくデビューし度いと思ふが要は原稿の寄り具合です振つて一つ、

○母校も綠うつそうとして愈々學園の貫錄を具へて來た裏門わきに基礎だけ出來て中止になつた圖書館も近々實現の見込だし又尻をまくつた樣だつた裏門の鐵條網も取のけられ裏門も立派になると聞く嬉しい限り(夙堂生)

大阪經濟大學同窓會報　參號
發行所　大阪市東淀川區大隅通七九
大阪經濟大學
同窓會本部
印刷所　同右
發行責任者　西宮市菊谷町四十番地
中島熹
非賣品
昭和二十五年七月一日發行

六回卒
前田和夫　寄贈